

SANEI

2023年3月期 決算説明資料

VERSE

SANEI 2023

2023年6月9日

SANEI 株式会社

証券コード：6230

(東京証券取引所 スタンダード市場)

1. 2023年3月期実績

SANEI 株式会社

売上高

26,564 百万円

営業利益

906 百万円

親会社株主に帰属する

当期純利益

630 百万円

大幅な増収

+ 3,565百万円(+15.5%)

- 新規連結会社の増加
- 従来の販売ルートも好調

計画より微増

+ 564百万円(+2.2%)

- 新規連結増加分はほぼ計画通り
- 高付加価値製品の販売好調

大幅な減益

△570百万円(△38.6%)

- 上期の減益要因が影響
- 原材料・仕入価格の高騰
 - 販売価格改定の浸透遅れ
 - 一時的な広告宣伝費の増加

計画より増

+ 206百万円(+29.5%)

- 売上増加に連動した利益増
- 下期に販売価格改定が浸透

参考：期初業績予想との比較
△763百万円 (△45.7%)

△369百万円(△36.9%)

+ 230百万円(+57.6%)

参考：期初業績予想との比較
△419百万円 (△40.0%)

2 損益の概要

SANEI

- 売上高は新規連結会社の増加、既存販売ルートの上上拡大の両面により増収。
- 売上総利益率は原材料・仕入価格の高騰・高止まりにより**前期30.6%⇒当期28.4%**へ低下。特に、上期は仕入価格の上昇が先行したため、利益率の低下が顕著だった。
※**上期：前期31.6%⇒当期28.0%** **下期：前期29.7%⇒当期28.7%**
- 販売管理費は新規連結会社の増加、ブランド訴求力と認知度向上を目的とした企業広告「水から、ドラマチックに。」の展開による一時的な広告宣伝費などが増加。

	2022年3月期		2023年3月期		(単位：百万円)	
	年間	売上高 比率	年間	売上高 比率	前年 増減	前年 増減率
売上高	22,999	100.0%	26,564	100.0%	+3,565	+15.5%
売上総利益	7,038	30.6%	7,539	28.4%	+501	+7.1%
営業利益	1,477	6.4%	906	3.4%	△570	△38.6%
経常利益	1,492	6.5%	906	3.4%	△586	△39.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	999	4.3%	630	2.4%	△369	△36.9%
1株当たり当期純利益	436円62銭		275円39銭			



cye

3 四半期業績の推移

- 売上は例年の傾向と同じく、後半にかけて増加。年間を通して堅調に推移。
- 利益面では、上期は仕入価格の上昇が先行、販売管理費の一時的な増加などがあったが、下期は販売価格改定が進んだことにより収益性が改善。

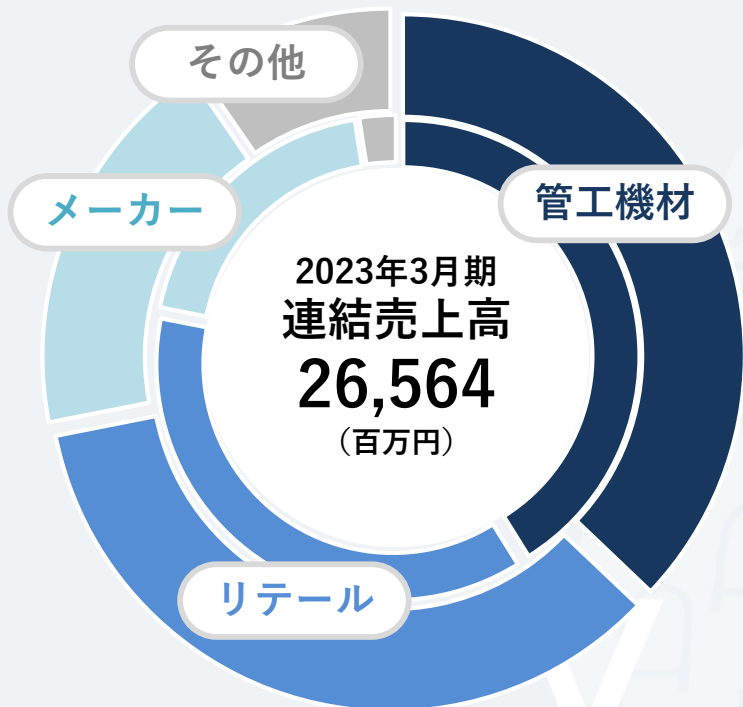
(単位：百万円)



前期 2022年3月期	1Q	2Q	3Q	4Q	年間
売上高	5,587	5,471	5,990	5,950	22,999
進捗率：四半期	24.3%	23.8%	26.0%	25.9%	
： 累計	24.3%	48.1%	74.1%	100.0%	
営業利益	354	338	442	342	1,477
進捗率：四半期	24.0%	22.9%	30.0%	23.2%	
： 累計	24.0%	46.9%	76.8%	100.0%	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	211	253	297	237	999
進捗率：四半期	21.1%	25.3%	29.8%	23.8%	
： 累計	21.1%	46.4%	76.2%	100.0%	

当期 2023年3月期	1Q	2Q	3Q	4Q	年間
売上高	6,423	6,210	6,855	7,075	26,564
進捗率：四半期	24.2%	23.4%	25.8%	26.6%	
： 累計	24.2%	47.6%	73.4%	100.0%	
営業利益	97	6	361	440	906
進捗率：四半期	10.8%	0.7%	39.9%	48.6%	
： 累計	10.8%	11.5%	51.4%	100.0%	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	35	△ 67	325	336	630
進捗率：四半期	5.7%	△10.8%	51.6%	53.5%	
： 累計	5.7%	△5.1%	46.5%	100.0%	

4 販売ルート別の概況



販売ルート別 売上構成
(外円：当期／内円：前期)

	前期 増減	
管工機材	→	現場物件やデザイン水栓シリーズ、洗面商材などの水域戦略、宿泊施設など非住宅市場への拡販や展示会など販促活動により売上は堅調に推移。
リテール	↗	E C市場は引き続き売上が拡大。ウルトラファインバブル製品を中心とした高機能製品やホームセンター向けのP B商品などの販売が好調。
メーカー	↗	住設メーカー向け新規標準採用品が売上増加に貢献。賃貸住宅市場向けの受注が回復。

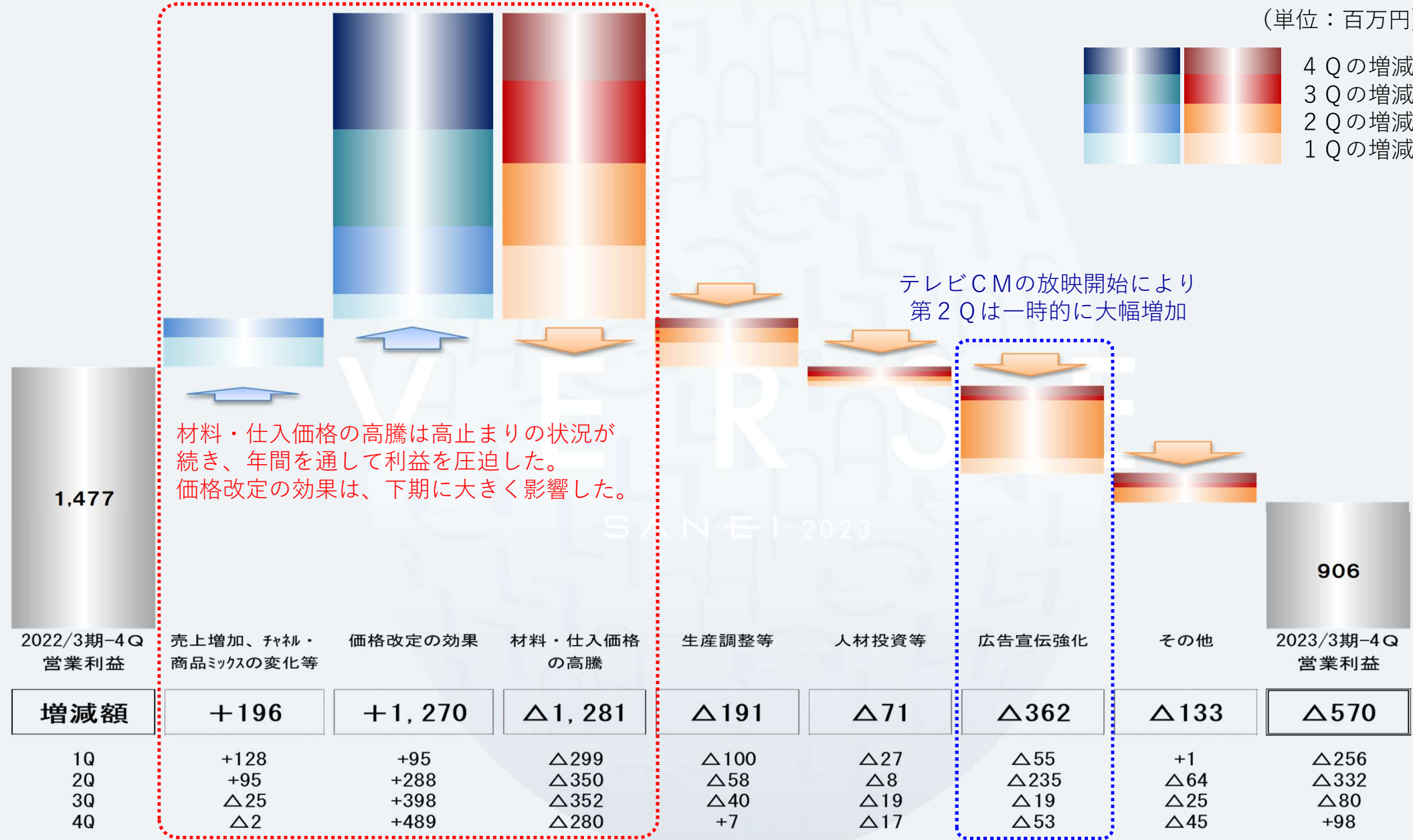
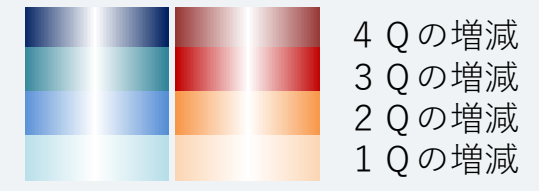
※注) 当期から連結対象会社が増えたため、「その他」の売上が増加しています。そのため、各販売ルートの売上構成比は横ばい、もしくは下がっています。



5 営業利益の増減要因

前年差異△570百万円の内訳

(単位：百万円)



増減額	+196	+1,270	△1,281	△191	△71	△362	△133	△570
1Q	+128	+95	△299	△100	△27	△55	+1	△256
2Q	+95	+288	△350	△58	△8	△235	△64	△332
3Q	△25	+398	△352	△40	△19	△19	△25	△80
4Q	△2	+489	△280	+7	△17	△53	△45	+98

6 連結BS (資産・負債・純資産)

- 流動資産は売上増加に連動して売上債権が増加。
- 建設仮勘定の増加は、主に岐阜工場の増改築が要因。

		2022年 3月末	2023年 3月末	前期末 増減	(単位：百万円) 主な要因
資 産	流 動 資 産	14,925	15,757	+ 832	・ 現金預金 + 63 ・ 売上債権 + 912 ・ 棚卸資産 △187
	固 定 資 産	7,542	7,697	+ 155	・ 建設仮勘定 + 212
資 産	合 計	22,467	23,455	+ 987	
負 債	流 動 負 債	7,702	8,263	+ 560	・ 仕入債務 + 568 ・ 借入金 + 118 ・ 未払法人税等 △255
	固 定 負 債	2,812	2,695	△116	
負 債	合 計	10,515	10,959	+ 444	
純 資 産	合 計	11,952	12,495	+ 543	・ 当期純利益 + 630 ・ 剰余金の配当 △217
負 債 純 資 産	合 計	22,467	23,455	+ 987	



7 連結キャッシュフロー

SANEI

(単位：百万円)

	2022年 3月期	2023年 3月期	前期末 増減	主な要因
期首残高	1,717	2,186	+469	
営業C/F	897	990	+93	税金等調整前当期純利益 782 減価償却費・減損損失 683 売上債権・仕入債務の増加 △342 棚卸資産の減少 198 法人税等の支払額 △528
投資C/F	△395	△834	△438	有形固定資産の取得による支出 △732 工場新築工事に関連する費用の支払や、新規連結会社の増加による連結ベースでの設備投資額増のため。
財務C/F	△311	△89	+222	借入金の純増減額 130 配当金の支払額 △217
その他	3	△5	△9	
新規連結に伴う現金等の増加	275	—	△275	
期末残高	2,186	2,247	+60	



2. 2024年3月期計画

SANEI
2023

SANEI 株式会社

私たち SANEI は、ライフスタイルの変化、個性や価値観の多様化に対して、「新たな水まわり空間」の研究開発と提案に取り組み、人と水との出会いに心地よさと喜びを届けてまいります。

(単位：百万円)

	2023年3月期			2024年3月期			前年 増減	前年 増減率
	2 Q 累計	年間	売上高 比率	2 Q 累計	年間	売上高 比率		
売上高	12,633	26,564	100.0%	13,600	28,000	100.0%	+1,435	+5.4%
営業利益	103	906	3.4%	550	1,350	4.8%	+443	+48.9%
経常利益	89	906	3.4%	550	1,350	4.8%	+443	+49.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	△32	630	2.4%	380	920	3.3%	+289	+45.9%
1株当たり当期純利益		275円39銭			401円92銭			

9 株主還元（配当実績・計画）



2024年3月期は年間98円の配当を予定
（前期より2円増・8年連続増配）

	年間配当金			配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)
	中間 円 銭	期末 円 銭	合計 円 銭		
2017年3月期	5.00	10.00	15.00		4.7%
2018年3月期	10.00	15.00	25.00		9.5%
2019年3月期	15.00	15.00	30.00		11.2%
2020年3月期	15.00	30.00	45.00	88百万円	14.0%
2021年3月期	30.00	45.00	75.00	161百万円	15.3%
2022年3月期	45.00	47.00	92.00	210百万円	21.1%
2023年3月期	48.00	48.00	96.00	219百万円	34.9%
2024年3月期 (予想)	49.00	49.00	98.00	224百万円	24.4%

- ◆ 2020年1月2日付で株式1株につき10株の株式分割を行っております。当資料では2017年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定しております。
- ◆ 2021年3月期 期末配当金の内訳は、普通配当 30円00銭・東証二部市場上場記念配当15円00銭となっております。
- ◆ 2022年3月期 期末配当金の内訳は、普通配当 45円00銭・株式上場1周年の記念配当2円00銭となっております。

将来にわたり安定的な配当を実施することを基本方針とし、
今後も長期、継続的な増配をめざします。



売上高・収益性の向上（事業領域の拡大）

- 「上質をデザインする」 SANEIブランドの更なる向上
～意匠、仕上げ精度、使用感、すべてにおいて最上級に相応しいものづくりへの挑戦～
- 水まわりにおける住空間全体をトータルに提案できる事業展開
～当社製品と他業種との協業・コラボレーション等によるラインナップの充実～
- 宿泊施設・飲食店・介護医療・公共施設など非住宅市場におけるシェア拡大

企業価値
向上

継続的な株主価値の向上

- 安定的な配当と長期・継続的な増配を目指す
～2024年3月期は8年連続増配の予定～

2023年3月期末時点の状況

PBR

0.55倍

=

PER

(株価収益率)

10.1倍

×

ROE

(自己資本利益率)

5.4%

期末株価：2,780円

1株当たり当期純利益：275.39円

当期純利益：630百万円

自己資本：11,590百万円

それは、
未来への潮流。

ONE WITH
NATURE

サステナビリティと、便利さ・快適さ。それらは、必ずしもトレードオフの関係に設置されるものではありません。暮らしのインフラがさらに成熟すれば、密集する都市空間に縛られることもなく、きれいな空気と広々とした大地のもと、今以上に豊かに生きることができはります。これからの住環境のネクストコンセプトとして、SANEIは「自然と一つになって暮らせる住まい」を構想し、新たな水まわり空間の研究と開発、そして提案に取り組んでいます。

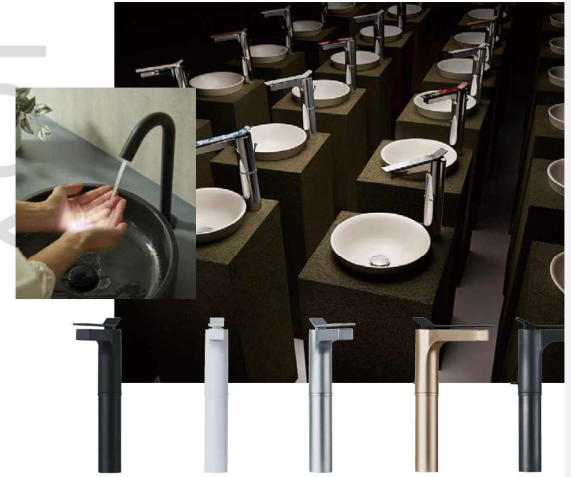


V E R S E
2023

自らに課した「上質をデザインする」という命題。上質は、単なる高級とは異なります。本当の意味での「上質」の定義に対して、果たしてどこまでその極みに迫れるか。SANEIは、理想の中に思い描くラグジュアリーな概念を頂点として新たな製品体系を設定し、その秩序に基づく製品開発を進めています。水の音、流れる姿、手に伝わる感覚に至るまでどこまでも美しい体験を追い求め、意匠、仕上げ精度、使用感、すべてにおいて最上級に相応しいものづくりへの挑戦を続けています。



水は、朝・昼・夜、一日の中で必ず触れるもの。そして、生涯を通して触れ続けるもの。性別、世代、国籍、人種を超えて、私たちの手掛ける製品は、十人十色の「生きる」に寄り添い、そこに息づく喜びを見守り続けています。いつも、どの瞬間でも、地球上のどこかで私たちの製品が使われている— そんな日があるのを夢みて、SANEIは「人類ある限り水は必要である」の理念を実践しています。現代を生きるすべての人にとって、水と出会うほんのわずかなひとときが、明日への活力になると信じて。



静寂から湧き起こり、ゆるやかに泰然とハーモニーを加えながら、主旋律を刻み続けるポレロのようにブランドの理念はそのままだに、いま変化への機運をまといながら、新たな時代に向けて奏でる創造のヴァース
出会い 融合 変異 進化—— SANEIの次のステージはもう始まっている



たとえばシャワーの「浴び感」一つとっても、水粒の形状や大きさといったあらゆる要素を分解し、「心地よさ」の理由を科学する。こうして目に見えない「心地よさ」、感覚の世界とされてきたエモーショナルな品質に対しても客観的な指標を取り入れ、SANEI独自のクラテリア（評価基準）として運用を始めています。さらにこの先、人によってそれぞれ感じ方が異なる心地よさでも、センサーやAIといったテクノロジーを駆使して最適を追求していく。最後は人の手と感度によって仕上げる熟練技能。そこに科学的探求を組み合わせることで、SANEIブランドの品質を自ら規定し、さらなる高みをめざしています。

[SANEI 2023 CONCEPT] 特設Webサイト
<https://www.sanei.ltd/library/2023concept/>

DESIGNER
COLLABORATION

国内外で活躍するデザイナー達とのコラボレーションから生まれた、不朽のマスターピース。



Designed by
nendo



佐藤オオキを中心に設立されたデザインオフィス。東京とミラノに拠点を持ち、建築、インテリア、プロダクト、グラフィックと幅広くデザインを手掛ける。

<https://www.nendo.jp>



Designed by
SUPPOSE DESIGN
OFFICE



谷尻誠、吉田愛率いる建築設計事務所。幅広い分野のプロジェクを手掛けながら、「社食堂」や広島本社の移転を機に商業施設の運営もスタートするなど事業の幅を広げている。

<https://suppose.jp>

WAILEA
DESIGN

人と水のよりよい関係を現代空間の中で追求する、SANEI インハウスデザインによるラインナップ。



Designed by
WAILEA DESIGN

無限に変化する水のデザイン。
morfoは水栓を"なくす"という斬新な発想から生まれました。水栓や棚のデザインを統一し、パネルで構成されたボックスの中に一体化しました。



Designed by
WAILEA DESIGN

五感を満たす心地よさ。
ヨーロッパ調のシンプルで洗練されたデザインで、時間がゆっくりと流れるような、落ち着いた空間を演出します。



Designed by
喜多俊之
TOSHIYUKI KITA



デザイナー。プロダクト及び、空間など、分野を超え、数多くのデザインを手がける。作品の多くが MOMAを始め、世界のミュージアムに永久収蔵。

<https://www.toshiyukikita.com/jp>



Designed by
森田恭通
YASUMICHI MORITA



GLAMOROUS co., Ltd.代表。国内外へ活躍の場を広げ、インテリアに限らずグラフィックやプロダクトといった幅広い創作活動を行っている。

<http://glamorous.co.jp>



Designed by
WAILEA DESIGN

見ているだけで微笑んでしまう、思わず触れてみたくなるキュートなフォルム。常夏の自然に育まれた果実をモチーフにしたなんとユーモラスな表情が印象的です。



Designed by
WAILEA DESIGN

和と、輪と、環。一輪挿しのように凛とした佇まい。本物の竹を重ね合わせ、磨きこんで形にする。水の出口に曲げた銅板を使い、水の流れを目と耳で楽しむ。「いちりん」は和の伝統を受け継ぎながら唯一無二の存在。



Designed by
鈴木エドワード
EDWARD SUZUKI
1948-2019



建築家。公共施設から個人邸、集合住宅まで幅広く手がけ、グッドデザイン賞、エコビルド賞など数々の賞を受賞している。

<https://edward.net>



Designed by
岩倉榮利
EIRI IWAKURA
1948-2019



家具ブランドROCKSTONEを創立。日本の伝統的な匠や現代の工業技術を暮らしの道具へと昇華。プロダクトデザイン、空間プロデュース、企業コンサルタント、人材教育までを手掛ける。

<https://rockstone.co.jp>



Designed by
WAILEA DESIGN

操作は軽くタッチするだけ
イタリア語のtoccare「ふれる」という語源そのままに、吐水、水量や湯・水の切り替えはタッチパネルに「ふれる」だけ。そのスマートな操作性と近未来的なデザインが、洗練された空間を創り出します。



Designed by
WAILEA DESIGN

KOKOEは手荷物を腕にかけたままでも使いやすいよう、六角形で構成されたカウンターセットです。ポウルとカウンターは抗菌仕様の人工大理石を採用しており、シームレスですっきりとした印象に仕上げられています。

H₂O DESIGN

水をデザインする。

We design water.

SANEI

補足資料



社名	SANEI株式会社
事業内容	給水栓・給排水金具・継手 および配管部材の製造・販売
創業	1954年（昭和29年）9月
代表者	代表取締役社長 西岡 利明
本社	大阪市東成区玉津1丁目12番29号
資本金	432百万円 ※2023年3月末時点
連結業績	売上高：26,564百万円 経常利益：906百万円 ※2023年3月期
従業員	連結：862名 単体：663名 ※2023年3月末時点
グループ会社	株式会社アクアエンジニアリング 大連三栄水栓有限公司 株式会社水生活製作所 美山鑄造株式会社

東京ショールーム



名古屋ショールーム



大阪ショールーム



福岡ショールーム



表参道ショールーム(WAILEA)



青山ショールーム(FLUSSO)



ALWAYS WITH JOY

きょう、あした、
人のそばに。喜びのそばに。

朝起きて、顔を洗う。

汗を流して、疲れを癒やす。

めざめて、活動をして、眠りにつくまで、

私たちの商品に触れるところから一日が始まり、

触れることでまた一日の終わりを迎える。

そんな日々が、きょうも、あしたも、続いていく。

私たちにとって、その人の一日に寄り添うことは

その人の人生そのものに寄り添うことでもあります。

ALWAYS WITH JOY.

いつもあなたの喜びのそばに。

そんな願いを込めて

SANEIはすべての商品をお届けしています。

「点」展開の時代

みずみち 「水道/線」展開の時代

みずいき 「水域/面」展開の時代へ

* 水栓単体の「点」の販売

* 水道メーター以降、蛇口までの水道インフラ全体をカバーするモノづくりを推進

* キッチンルーム+バスルーム+洗面ルームなどをすべてカバーする「面」対応のビジネスへ

1954
(創業)

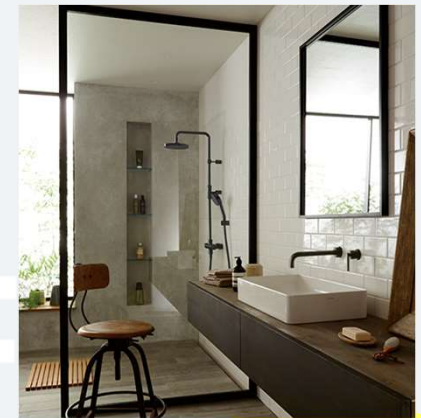
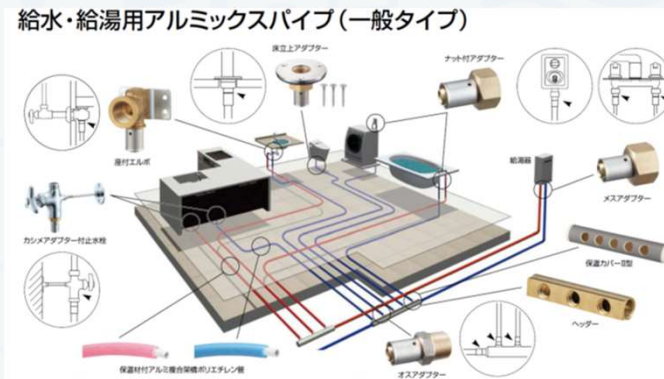
1980

2018~

「自社ブランドによる水栓金具メーカー」

「水栓メーカーとして確固たる地位の確立」

「水まわりにおける住空間全体をトータルに提案できるメーカー」



「toccata」が日本インダストリアルデザイナー協会の「JIDAデザインミュージアムセレクションVol.19」において2017年度の選定商品となる



シングルレバー湯水混合栓

1975



サーモスタット式湯水混合栓

1983



業界初の洗濯機用水栓

1989

雨水・中水活用システムが大阪府より「ゴールド・エコテック」の称号を授与される

2000

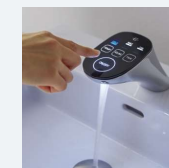
業界初の水道用コンセント「シンプレット」



2011

2018

サーモワンホール洗面混合栓(タッチ式)「toccata」



1954
創業

1967

日本初のシャワー付湯水混合水栓

デザイン水栓シリーズ



給水栓・給排水金具

シングル混合栓（センサー式） サーモシャワー混合栓



キッチン用



バスルーム用

シングルスプレー混合栓（センサー式）



洗面所用

単水栓・止水栓



シャワー用品

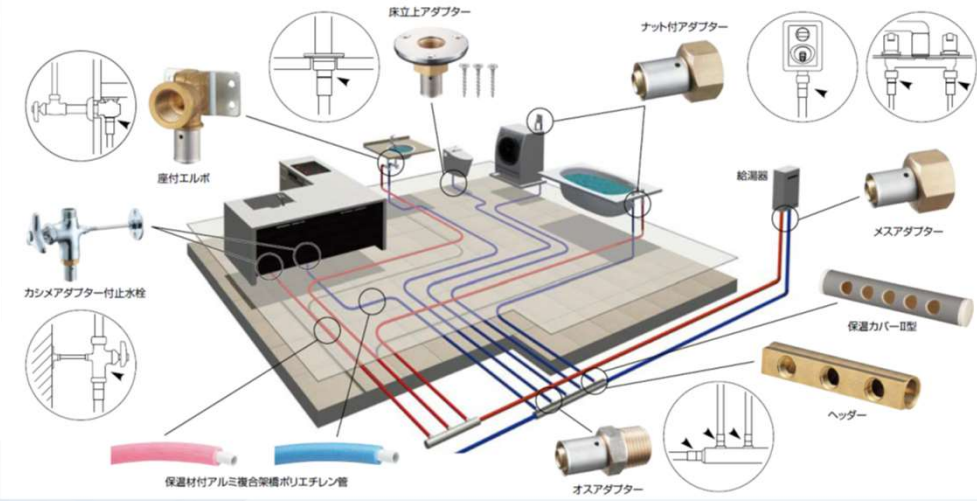


トイレ用品



継手および配管部材

給水・給湯用アルミックスパイプ（一般タイプ）



水まわり資材を扱う管材店向けの「管工機材」から、住宅設備「メーカー」、ホームセンターなどの「リテール」までバランスよく展開

	主な販売先	事業展開の方針
管工機材ルート	水まわり資材を扱う管材店	<ul style="list-style-type: none"> (1) ホテル、飲食店、病院、介護老人保健施設等の非住宅関連へのスペックイン (2) 住宅内の水まわり設備のトータル提案 (3) パワービルダー、ハウスメーカー、工務店等住宅関連へのアプローチ
リテールルート	量販店 ネット販売業者	<ul style="list-style-type: none"> (1) ホームセンター向け水まわり商材の企画、開発と販売体制の強化 (2) 家電量販店、総合スーパーなどへ水まわり商材や雑貨、リフォーム商材などの提案 (3) テレビ通販、インターネット販売業者への販路拡大
メーカールート	住設機器メーカー	<ul style="list-style-type: none"> (1) 優位性のある中高級グレードの商品投入とVEの取り組み (2) バス、洗面、キッチンなど、住宅設備機器メーカーとの協業による水まわり空間の提案
海外ルート	海外市場	<ul style="list-style-type: none"> (1) 中国、台湾、インドネシア等のアジア諸国向けに中高級グレードの商品投入 (2) 海外各国の現地代理店との提携強化、新規開拓による販売

2支社・2支店を中心に19営業所・4出張所で、全国を網羅するネットワークを構築

【2支社・2支店・19営業所・4出張所体制】

- 三大都市圏と福岡に設置した2支社・2支店を中心に、管工機材ルート的主要顧客である管材店に対して、全国隈なく網羅的にサービスが提供できる営業ネットワークを構築
- リテールルートとメーカールート的主要顧客 (=事業規模が大きい) については、支社支店が中心となって本部 (主に大都市圏に設置) にて対応



営業所：19拠点

- ⑤札幌営業所
- ⑥盛岡営業所
- ⑦仙台営業所
- ⑧郡山営業所
- ⑨つくば営業所
- ⑩東京西営業所
- ⑪さいたま営業所
- ⑫千葉営業所
- ⑬横浜営業所
- ⑭新潟営業所
- ⑮金沢営業所
- ⑯静岡営業所
- ⑰京都営業所
- ⑱神戸営業所
- ⑲広島営業所
- ⑳松山営業所
- ㉑熊本営業所
- ㉒鹿児島営業所
- ㉓沖縄営業所

出張所：4拠点

- ㉔宇都宮出張所
- ㉕高崎出張所
- ㉖長野出張所
- ㉗北九州出張所

連結子会社

- (株)アクアエンジニアリング
- 大連三栄水栓有限公司 (中国)
- (株)水生活製作所
- 美山鑄造(株)

■ ショールーム & ショップ 「WAILEA御堂筋」 2023年5月21日オープン

「WAILEA御堂筋」（大阪市中区）が2023年5月21日にオープンいたしました。

「WAILEA」は暮らしの中でリラックスできるバスルームやパウダールームなど水まわり空間のご提案を中心に、素敵なインテリア、フレグランス、バスグッズ、ケア商品をセレクトしたショールーム & ショップです。

「WAILEA表参道」（東京都渋谷区：2007年4月オープン）とともに、既成概念にとらわれることなく、ライフスタイルに合わせて水まわり空間をデザインいたします。洗面、バスルームだけでなく、キッチンやリビングまでもが一体になった自由な空間。さらにその空間への家具や雑貨、アメニティなどもトータルでご提案いたします。



ショールーム & ショップ外観



ショールーム展示



ショップ内観



<https://www.wailea-club.com/>

WAILEA御堂筋

大阪市中区安土町3-5-13
 本町ガーデンシティテラス 1階
 地下鉄御堂筋線「本町駅」出口1直結
 TEL:06-6265-1961

SANEIは、1954年の創業以来
「人類ある限り水は必要である」を理念とし、
地球に生きる一員としての自覚を持ち、
企業活動に取り組んできました。

安全で快適な暮らしを提案

持続可能な社会において、水は生活の基本であり、QOL (Quality of Life)の要ともいえます。健康・安心を求める人々のニーズに応え、すべての人が容易にアクセスでき、快適な暮らしを享受できる製品の提案に取り組んでいます。



非接触で清潔
音声操作で清潔・快適
部屋に菌を持ち込まない

地球や環境に優しいモノづくり

モノづくりに伴う環境負荷を最小化すること。そして生活の中での水利用における環境配慮。さらには洪水や地震など災害時におけるレジリエントなシステムの提案。自然と生活に関わる企業としてその使命を果たします。



環境配慮型バルブ認定
天然素材を利用した水栓

働くよろこびとお客様や地域とのつながり

人とのつながりは企業のかけがえのない資産です。誰もが働きやすい環境と活躍できる機会を確保するとともに、お客様や地域とのパートナーシップを強化して社会に信頼される企業を目指しています。



若手建築家への支援協賛
地域清掃活動

DISCOVER
in Water

人もまた、循環の一部である

人類が豊かさを追い求めてきた結果、自然は破壊され、地球が悲鳴を上げている…環境問題が深刻さを増してきた20世紀の終わり頃からそうしたベシミスティックな世界観が世の中を覆いました。けれど人の文明は、暮らしとは、本当に地球にとって害悪でしかないのでしょうか。数々の“不都合な真実”を見る限り、人の活動が自然環境にネガティブな影響を与えている側面はもちろん否定できないでしょう。しかし人類を「自然と競合する存在」とみなすこと自体、見方によっては人間の傲慢とはいえないでしょうか。悲鳴を上げているのは地球というより、人間ではなかったでしょうか。

思えば人の営みもまた自然の摂理の中にあり、私たちの社会も含めて地球上の大きな循環=みずみちの一部を為しています。そしてかつての水田や里山がそうであるように、人が手を加えた自然は長い歳月をかけて環境を豊かにし、生物の多様性を育むことさえしてきました。相互の調和—その関係性に逆らうことなく、地球と一体となって生きること。それが、これから目指していくべき持続可能な社会への一つの答えなのかもしれません。



水の循環にかかわる存在として、
いつまでも人々の生活の憩いと潤いが続くように。
Think Life. Make Act.
美しいこの惑星（ほし）の未来のために、
今日私たちにできることを。
私たちの挑戦は始まっています。

A L W A Y S W I T H J O Y

S A N E I

本資料に関するお問合せやIRミーティングのご依頼

▽ 当社ホームページ <https://www.sanei.ltd/>

▽ メール ir-sanei@sanei.ltd

▽ お電話 06-6972-5955

担当：SANEI株式会社IR課

SANEI株式会社

<https://www.sanei.ltd/>

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。